

# アクアフォーム 施工マニュアル

施工前に  
必ずお読み  
ください

## 施工前の確認事項と施工手順

アクアフォーム / アクアフォームLITE / アクアフォームNEO

### 全体の流れ

- ▼ 施工日の日程確認 (お客様に行っていただくこと)
- ▼ 施工前の確認事項 (お客様に行っていただくこと)
- ▼ アクアフォームの施工
- ▼ 工事完了確認書兼納品書の発行
- ▼ 気密測定 ※ご希望により別途有償にて行います

施工前に現地打ち合わせをさせていただきます。  
以降は電話による現場調査となります。

# AQUA FOAM

まずはじめに

# アクアフォーム吹付け施工日の目安

※施工状況により当てはまらないこともあります。あくまで目安としてください。

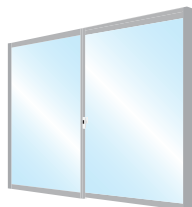
## 01 発注 上棟日から約2週間前後の日付で発注をしてください。

- 中間検査：ウレタンを吹付けると検査の対象部が確認できなくなってしまいます。中間検査後に吹付け施工を予定してください。

## 02 確認

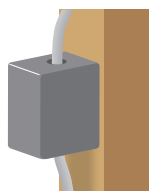
### サッシ・ガラスは取付けてありますか？

施工中に現場内へ風が入ってしまうとウレタンが飛散してしまうおそれがあります。必ず吹付け施工前に開口部の取付けを済ませてください。



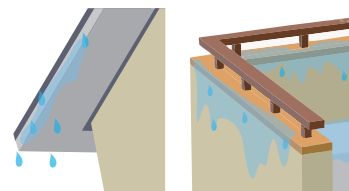
### 電気ボックスの取付けはできていますか？

取付けが後工程となる場合、どうしても隙間ができ、その“隙間を埋める”余分な手間がかかりますので、必ず吹付け施工前に電気ボックスの取付け・配線工事をお願いします。  
電気配線が後施工になる場合、補修にはアクアフォーム1液性ハンドタイプをご利用ください。



### 施工躯体面に濡れや汚れはありませんか？

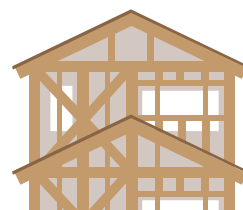
吹付け面が濡れていたり汚れていると、ウレタンの接着力が落ちてしまいますので、施工躯体面の濡れや汚れの除去と雨仕舞を完了させてください。(バルコニーなどの防水工事・外壁の透湿防水シートは施工済の状態としてください。) また、木材は乾燥したものをご使用ください。



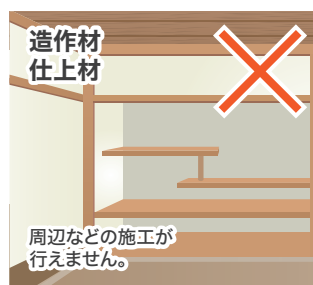
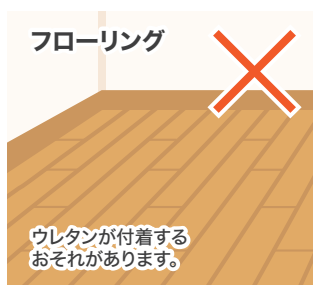
## 03 施工日の決定

その他の工程とも調整しながら施工日を決定してください。  
なお、施工当日の室内作業はアクアフォーム吹付けのみにて計画をお願いします。  
決定後、天候などの影響により施工日の変更をご希望される場合も、ご相談をお受けいたします。  
その場合は、現場状況を随時お知らせください。

※室内での他作業や資材搬入などにより予定通りに吹付け工事が完了しない場合があります。  
※遅延が生じた場合、別途追加費用が発生いたします。



**❌ 吹付け前の施工はお止めください！** 隙間なく吹付けできず、断熱性、気密性が確保できません。



- スプレーで断熱材を吹付けます。化粧梁・柱、勾配天井の位置を、図面に記載の上お知らせください。
- 造作材・仕上げ材の施工については、アクアフォームの工事完了後に行ってください。
- 構造部などのウレタンが付着してはいけない箇所(化粧梁、柱など)は、施工日までに貴社にて飛散防止の養生を行ってください。
- あらわし・塗装済の化粧材への飛散事故について、弊社では対応・補償はいたしかねます。

# 01 スペースの確保とご用意いただくもの

## 施工車 (2t~4t) の駐車スペース・進入経路の確保



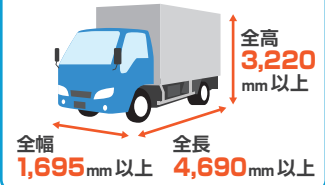
アクアフォーム施工車は高さ3,220mm(2t車)以上あり、施工車に発泡機や原料などを積載し、そこから施工現場内にホースを引き込み、吹付け作業を行います。

- ① 2tトラック(寸法：全長 4,690mm、全幅 1,695mm、幌を含めた全高 3,220mm)が進入できること(道幅、道路標識、カーブミラー、曲がり角の内輪差、木の枝などの障害物がないこと)
  - ② 通行経路の確保、現場に隣接する駐車スペースの確保、ホースが踏まれ破裂しないようホース経路の確保、暗渠マス、側溝などが破損、ぬかるみなどによりスタックしないように敷板などを設置すること
- ※ なお、やむを得ず路上しかスペースを確保できない場合は、交通誘導員を手配し道路使用許可を取得してください。(許可期間にご注意ください。)

※ 施工時には音が出ます。

※ 施工車両・ドライバーなどの情報が必要な場合は、事前にお問い合わせください。

### 施工車両(2t)寸法目安

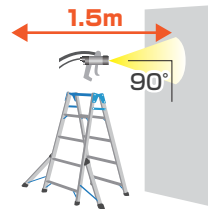


**P** 2t~4t トラック用  
パーキングスペース

## 吹付け施工に必要なスペースの確保

吹付け施工は専用ガンを使用し、吹付け面に対して垂直が基本。(斜めに吹付けると発泡が偏ってしまいます。)壁の上の方や屋根面に吹付ける場合、脚立がないと届かないため、脚立が立てられるように壁から1.5m程度のスペースを確保してください。また、工具・材料などは各階の断熱施工範囲から離し、汚れないよう養生してください。

※ 作業スペース確保のため、資材搬入は断熱施工後に搬入してください。  
作業スペースが確保できない場合、吹付けできない箇所や作業をお断りする場合がございます。



## 床開口部への作業床の設置 (大屋根・階段室・吹抜けなど)

階段室や吹抜けなどの床開口部、大屋根など桁より上の位置にて壁や屋根面に吹付け施工を要する場合には、下の階へ転落しないよう構造用合板やローリングタワーなどで作業床を設置してください。  
<作業者の安全のため必要です。安全が確保されない場合、作業をお断りする場合があります。>

労働安全  
衛生規則

- 第563条 事業者は、足場(一側足場を除く。第三号において同じ。)における高さ二メートル以上の作業場所には、次に定めるところにより、作業床を設けなければならない。
- 二 つり足場の場合を除き、幅、床材間の隙間及び床材と建地との隙間は、次に定めるところによること。
    - イ 幅は、四十センチメートル以上とすること。
    - ロ 床材間の隙間は、三センチメートル以下とすること。
    - ハ 床材と建地との隙間は、十二センチメートル未満とすること。



## 吹付け施工当日の室内での作業・搬入はご遠慮ください

人の出入りがあると現場内に風が入り込み、養生がはがれてしまったり、ウレタンが飛散するおそれがあります。大事な工具や材料を汚さないためにも当日の室内作業はご遠慮ください。  
(キーボックスの情報・ゲートキーの開け方を事前にお知らせください。)



## 断熱住宅設計上の留意点

通気層の  
設置

**基準** 屋根または外壁を断熱構造とする場合にあっては、通気層を設ける。

防湿層の  
設置

**基準** 透湿抵抗の小さい断熱材を使用する場合は、防湿層を断熱層の室内側に設ける。

透湿抵抗の小さい断熱材(「繊維系断熱材等」という。)とは…

- ① グラスウール、ロックウール、セルロースファイバーなどの繊維系断熱材
- ② 吹付け硬質ウレタンフォームのうち、JIS A 9526 (建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム) A種3に該当するもの

**省略** ▼ 防湿層を省略できる要件

透湿抵抗比の計算または一次元防露計算(定常計算)による防露性能の確認計算によって省略することが可能。

※ スイッチやコンセントからの漏気を防ぐためにも、気密カバーの取付けを推奨いたします。

## 施工前の確認事項

## 02 屋根・天井

## 01 通気層の確保

## 通気スパーサーによる通気層の確保

## 推奨施工方法

屋外へ通じる隙間があると飛散するおそれがあります。  
スパーサーを折り曲げ、面戸としてご利用ください。

## 【軒桁・棟木】

- ※ スパーサーはタッカーで確実に留付けてください。雨などの湿気が膨張することがありますので施工日の直近に取付けてください。
- ※ 通気スパーサーの巾は垂木巾に合わせてご使用ください。垂木巾が狭い場合は適切にカットしていただき、断熱材が垂木に接着するようにしてください。
- ※ 折り曲げ寸法は、垂木寸法、断熱材厚さに合わせて適切な寸法としてください。
- ※ アクエアーは30mm程度を目安に重ねて留付けてください。
- ※ 外部飛散のおそれがあるため、施工日までに必ず隙間を塞いでください。
- ※ アクアフォームの接着性確保のため、折り曲げたアクエアーの下に、木部を30mm以上確保してください。
- ※ 通気層を潰さないようにスパーサーを取付けてください。
- ※ 隙間による断熱材の外部飛散・付着について、弊社では対応・補償はいたしかねます。
- ※ 桁へプラスターボードを張る場合は木部30mm以上を考慮した設計としてください。

## ■通気スパーサー設置例



## 透湿防水シートによる通気層の確保

母屋や桁に20mm~30mmかけ、通気層を確保してください。また、ウレタンの接着性を確保するため適切な間隔で胴縁などを取付けることを推奨いたします。

## ■透湿防水シート設置例



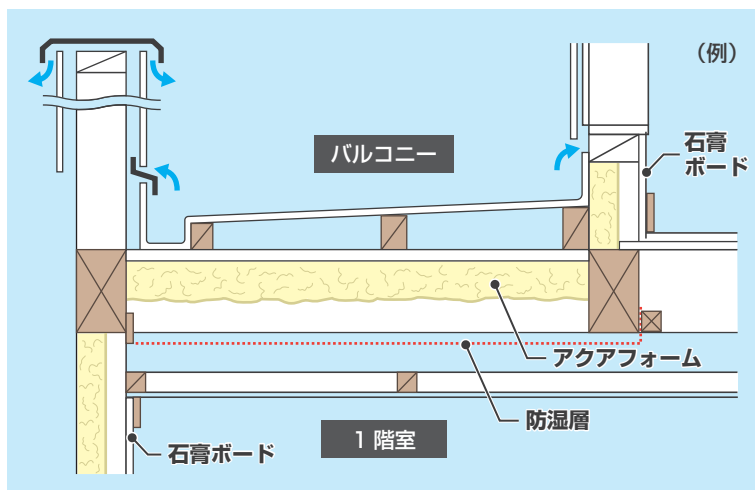
通気層には必ず入口と出口が必要です。  
屋根と壁の取合部やパラペットの立上りなど、出口が設置されないと、結露など不具合が生じることがあります。

アクアフォームNEOでは、アクエアー・シートとも直接吹付けはできません。

## 02 バルコニー下

- バルコニー下や寄棟屋根の隅木部分などは、通気が止まらないように設計上の配慮をしてください。
- 通気層が確保できない場合は防湿層を設置してください。
- 防湿気密フィルムの下地を設置する場合は、断熱材の施工範囲と干渉する可能性があるため、事前にお問い合わせください。
- 水平耐力面材を使用する場合は、断熱材の厚み確保の可否、防湿気密フィルムの設置方法をご確認ください。

※ バルコニー防水工事を先に済ませておいてください。



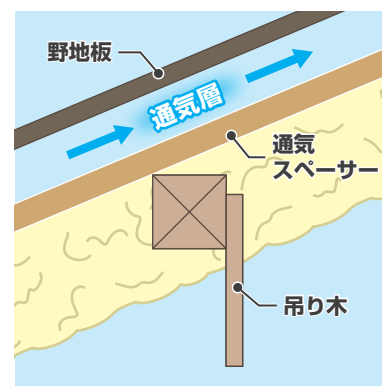
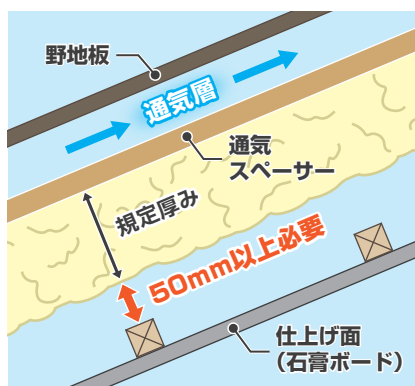
### 03 勾配天井とする場合

仕上げ面（石膏ボード）と吹付け部のクリアランスは50mm以上必要です。50mm以上のクリアランスが確保できず、施工当日に天井下地などが未設置の場合、規定厚みの確保を優先し（規定厚みよりクリアランス+50mm）施工いたします。

※上記内容にて設計ください。

※クリアランスが50mm以上確保できない場合は天井下地を先行して施工いただく場合がありますのでご相談ください。

※クリアランスが50mm以下の場合は削り作業となるため、別途追加費用が発生いたします。



天井の勾配によっては、吊り木を先に施工してください。

### 04 天井下地

吹付けウレタンは“天井下地が無い状態”での施工が前提となっていますので、下地組はウレタンの施工後に行ってください。

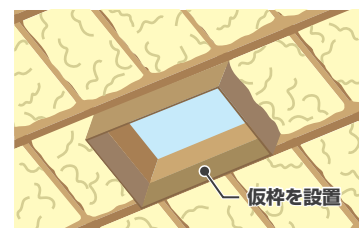
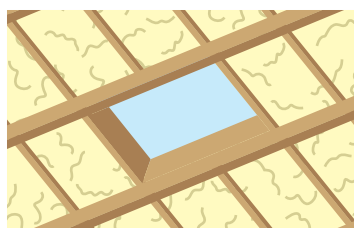
勾配天井以外、下屋、ベランダ下、外気に接する床の吹付けがある場合も、天井下地組はウレタンの施工後をお願いいたします。（勾配屋根等で、納まりなどにより追加費用を頂いたうえで先に施工する場合があります。）天井下地組が先行されている場合や天井下地上部の安全が確保されていない場合は、作業をお断りする場合がございます。

万一、アクアフォーム施工前に天井下地が組まれていた場合は、別途追加費用が発生いたします。



### 05 トップライト (天窓)

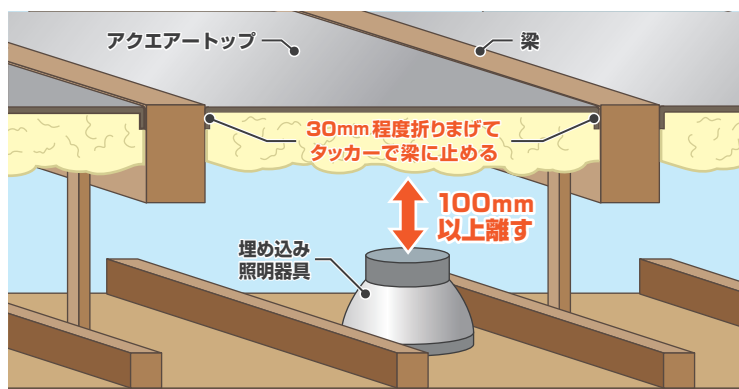
開口部を養生しての施工は可能ですが、右図のように仮枠があるときれいに仕上がります。



### 06 天井断熱

埋め込み照明器具を取付ける場合は、ウレタンと器具は100mm以上離してください。

※リフォームで天井面に吹付ける場合は別途ご相談ください。



## 施工前の確認事項

## 03 壁

## 透湿防水シート下地の施工方法

- ① シートにたるみがないように引っ張って止めてください。
- ② 柱・間柱にガンタッカーにて100mm以下の間隔で止めてください。
- ③ 上下の重ねしは90mm以上としてください。
- ④ 開口部周りは両面テープなどで密着させてください。
- ⑤ 土台・胴差し・軒桁・筋交いなどの裏にウレタンが回らないように、透湿防水シートをガンタッカーまたは両面テープなどで止めつけてください。

張ったシートを指で  
押してみてください。



張り具合  
チェック!

±5mm以内

透湿防水シートは弊社指定の

アクアウォール シリーズ

をご使用ください。

防水性能  
10年  
保証

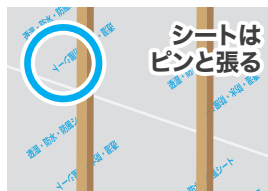
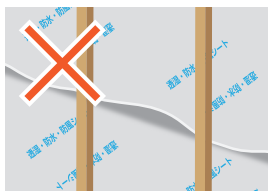
※ アクアウォールシリーズ以外（アクアホワイトウォール2除く）に直接吹付の場合は各シートメーカーにお問い合わせください。

※ アクアウォールNEOでは直接シートへの吹付けは行えません。

※ 他社製の透湿防水シートを使用した場合は、防水性能を保証できません。

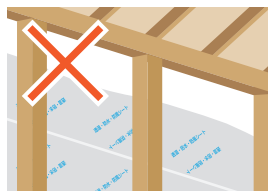
## ■ シートのたるみ

シートはピンと張ってください。



## ■ 張り足りない

シートが張り足りないため吹付け対象面が無い場合吹付け施工できません。



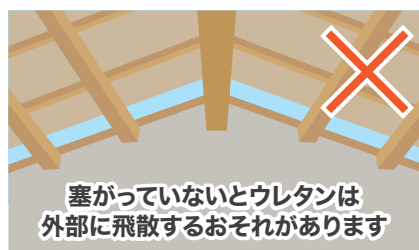
シートに吹付け施工した際、表面が膨れることがあります。これはシートの“たるみ”が原因です。多少の押出しはあるものの、シートのたるみ以上に押出すことはありません。ピンと張れていないシートに吹付け施工をすると、通気層が遮断されてしまいます。また、たるみにより“隙間”が生じ、ウレタンが外部に飛散するおそれがあります。

※ シートのたるみ、及びシートの施工不足があっても弊社では対応・補償はいたしかねます。

## 01 妻壁

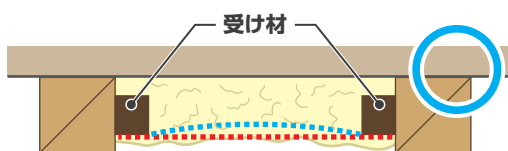
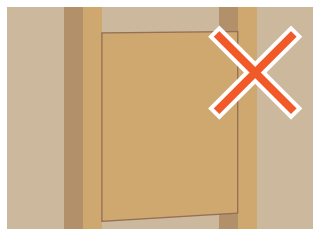
透湿防水シートや構造用合板など、吹付け面材は野地面まで張り上げ、隙間の無い施工としてください。隙間があると断熱材が外部に吹出すおそれがあります。

※ 隙間による断熱材の外部飛散・付着について、弊社では対応・補償はいたしかねます。



## 02 壁下地・入隅

下地板材を先行して取付けすると上下から吹込むような形になり、しっかり中まで充填できなくなるおそれがありますので、受け材の取付けまでとしてください。



- ..... 受け材表面で養生・カット
- ..... ナイフでカットする場合は受け材（-10mm）

壁に合板などの板材を取付け予定している箇所（階段、収納など）は、“受け材”の取付けまでとしてください。ウレタン施工後では受け材を打つための削り手間がかかります。真壁の場合も同様です。ウレタン施工日までに受け材を取付けておいてください。

※ 先行して下地板を取付ける場合、高さは200mmまでとしてください。

### 03 配線・配管・コンセントボックス など

- 配線の余剰部分はコンセントボックス内に巻くなどして収めてください。
  - 電気配線は弛み、遊びが無いよう要所要所をステーブルなどで柱に固定してください。また、配線は束ねることがないように注意願います。
- ※ 固定が甘いとウレタンの発泡に押し出されて室内側へはみ出てしまい、配管・配線をカットしてしまいますので必ずしっかり固定してください。
- ※ 配線時には日本電線工業会の許容電流を超えないようご注意ください。
- ※ 削り時、カッターと干渉しないようコンセントボックスを5mm程度壁内に入れてください。



アクアフォームNEOは、従来のウレタンフォームより断熱性が向上します。よって、電気配線が高温にならないように外周壁にはCD管を施工いただくか、埋設とならないように設計（電気配線をウレタン施工後に行うなど）いただくことを推奨いたします。また、透湿防水シートへの直接吹付は行うことができませんのでご注意ください。

#### 電動シャッター

シャッターボックスの電気配線用穴からシャッターボックス内にウレタンが吹出してしまいますので事前に防水テープやコーキングによる養生が必要です。

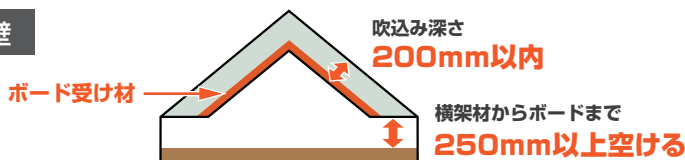
- ※ 配線穴からの飛散防止処置は必ず断熱施工前に行ってください。
- ※ シャッターボックス内の養生不備による断熱材の飛散について、弊社では対応・補償はいたしかねます。



### 04 石膏ボードの施工範囲

法22条地域、準防火地域、省令準耐火構造などにより石膏ボードを張り上げる場合にて、石膏ボードを先張りする際の注意点

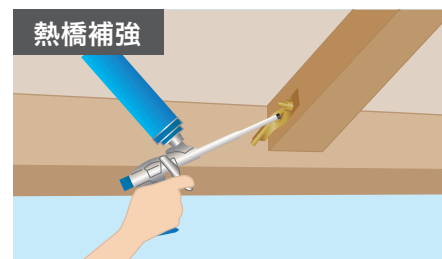
#### 妻壁



屋根の吹付けウレタンと取り合いになる部分のみボードを先行張り付けして、ボードの裏側には下から吹込みます。

- ボードとボードの受け材を合わせた深さは200mm以内としてください（有効105mmの場合）。
- 高さ200mmを超えたボードを先行して張ってしまうと、壁内に吹付けすることができなくなります。
- 高さ200mm以上で設置されている場合は充填ができず、断熱材が入らない場合があります。
- 積層厚みを管理できないため、不具合予防の観点からアクアフォームNEO施工時は石膏ボードの先行張りをしないでください。

#### 熱橋補強



熱橋部となる金物への補強吹付は特別な指示のない限り、吹付けと同時に施工いたしますので、中間検査は事前に行ってください。吹付け施工後に金具理め（熱橋補強）をする場合は、アクアフォーム1液性ハンドタイプをご使用ください。

## 施工前の確認事項

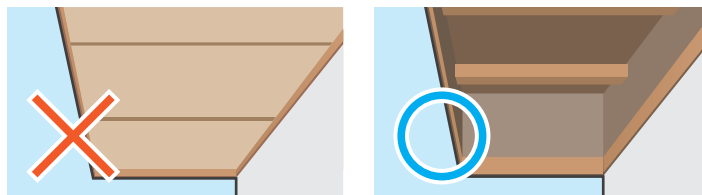
## 04 床・基礎

## 01 外気に接する床

“車庫天井”、“玄関ポーチ上”、“外部収納” など「上の階の床下が屋外」になっている部分が該当します。

先行して軒天井を仕上げてしまうと施工できませんのでご注意ください。

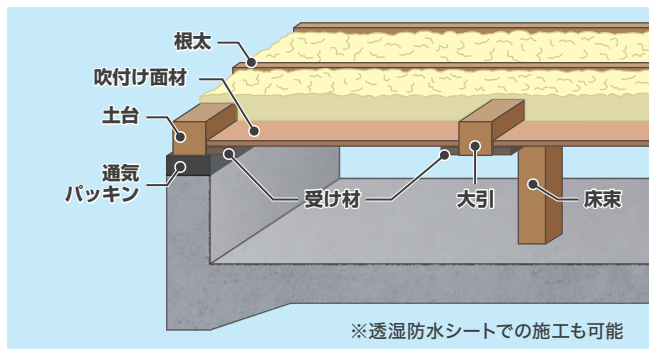
※ウレタン施工前の下地組はご遠慮ください。



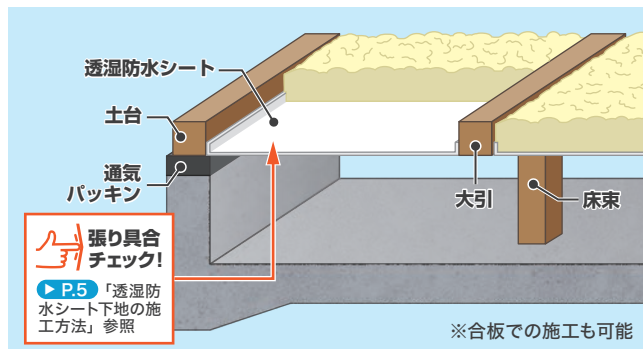
## 02 床

床へ施工する場合は室内（床上）側からの施工になります。下図のように受け材を大引に取付け、吹付け面材を設けてください。その際、断熱材の必要厚みが納まり上確認できるかご注意ください。

## ■根太工法（合板の場合）



## ■根太レス工法（透湿防水シートの場合）



基礎施工の場合は必ず、施工ができるように外周周りの床を開け、作業ができる状態にしてください。  
外周部の床が開けられない場合は外周半間の床を残し、それ以降の床を1間まで開けていただくようお願いいたします。

※吹付け面材に合板を用いる場合は、室内側防湿層の省略可否の検討が必要です。

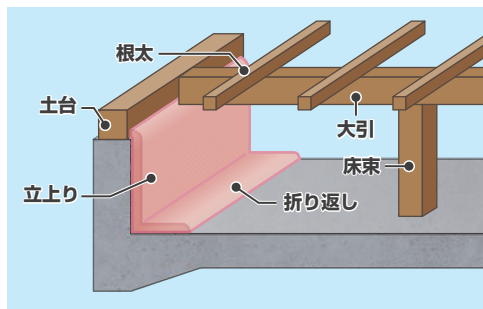
※作業員の安全が確保できない場合は、作業をお断りする場合があります。また、施工ができたとしても品質の確保ができない可能性があります。

※図面のご用意をお願いいたします。

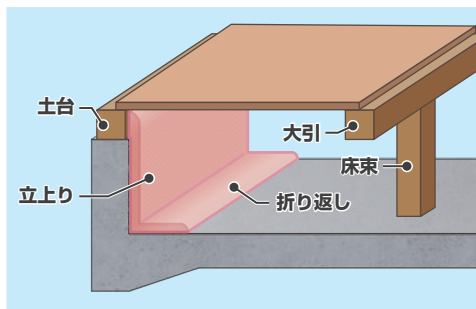
## 03 基礎

基礎は室内側から施工しますので、該当する部分の床下地材は後施工で行ってください。

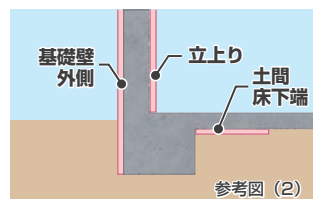
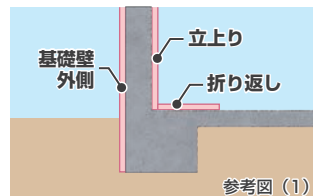
## ■根太工法



## ■根太レス工法



## ■べた基礎の断熱範囲



※アークアフォーム、アークアフォームLITE (A種3) は透湿抵抗が小さいため、基礎の発泡断熱材としては適していません。(アークアフォームNEOなど (A種1H) をご使用ください)

※基礎（土間床）の断熱は省エネ基準では基礎底盤上端から基礎天端までの垂直部分に断熱材を施工することとされています。しかし、基礎の底盤の外気側周辺から熱が逃げ易いため、図のように折り返しをつけることを推奨いたします。

※基礎内に水が溜まっている場合は、必ず除去してください。除去されていない場合は、施工を行うことができません。

※基礎コンクリートの含水率が高いと不具合を生じる場合がありますので、含水率8%以下としてください。

※断熱材の施工範囲内に給水・給湯・換気などの配管が施工されていると、断熱材を吹付けすることができません。

# 05 その他

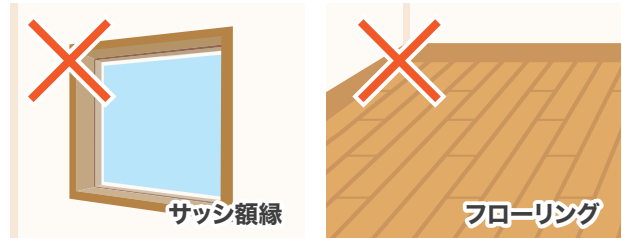
## 01 建具・仕上げ材

ウレタンのミストが付着したり、養生材を剥がす際や、ウレタンの削り時に仕上げ面を傷つけてしまうおそれがあるため、吹付け後に施工してください。

例) フローリング・サッシ額縁・玄関框・階段 など

※ 施工当日に建具・仕上げ材の設置がある場合、養生のため別途追加費用が発生いたします。

※ 別途費用を頂いた場合でも、付着・剥がれや、傷つけてしまうおそれがあるため、弊社では対応・補償はいたしかねます。

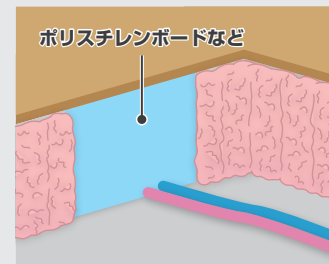


## 02 ユニットバス (UB)

ユニットバスの設置は吹付け完了後に行ってください。また、吹付け施工当日の搬入や組み立て作業もご遠慮ください。目に見えない微小なミストでも、仕上げ材に付着すると除去が困難になります。

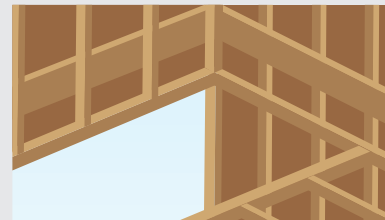
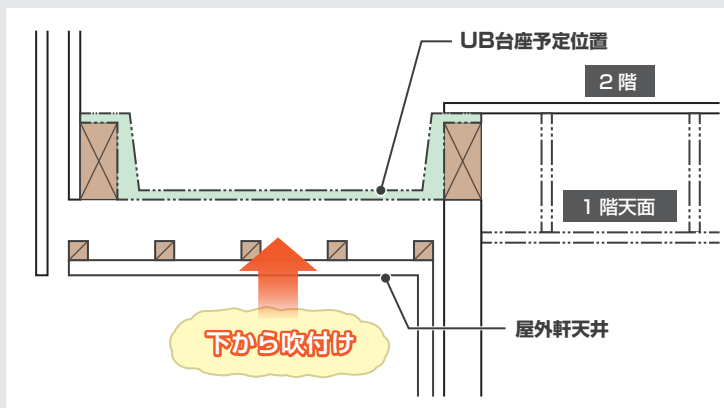
### 1階の場合

ユニットバスの人通口は、合板またはポリスチレンボードなどで塞いでください。



### 2階の場合

ユニットバス下が屋外（ユニットバス下が“外気に接する床”）の場合は、周辺の寸法や納まりにご注意ください。

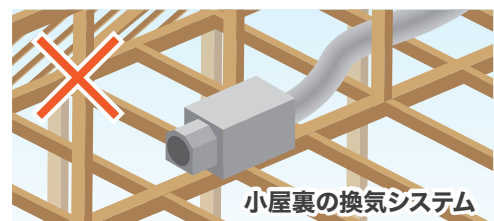


- 合板などにより吹付け下地面を設け、吹付け方向を指定してください。
- 吹付け厚さが他部材との取合いに影響しないか、あらかじめご確認ください。
- ユニットバスが2階設置の場合、安全対策のため作業床を設置してください。（作業者の安全が確保できない場合は、作業をお断りする場合があります。）

## 03 設備

換気システムの機械本体及びダクトを小屋裏に設置する場合は、ウレタンが付着したり、設置位置により確実な施工ができなくなるおそれがありますので、吹付け完了後に行ってください。

※ 万一、換気システム等を先行で設置される場合は設置業者様にて養生を行っていただきますようお願いいたします。



小屋裏の換気システム

# 施工手順

## 01 施工日程を確認

▶ P.1 「まずはじめに」参照

## 02 施工日前までに必ず行うこと

▶ P.2 ~ P.8 「施工前の確認事項」参照

### 吹付け施工前に必ず行っていただく事項

作業	用意
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 透湿防水シートの施工</li> <li>● バルコニーなどの防水工事</li> <li>● 面戸板の施工</li> <li>● 通気スパーサーの施工</li> <li>● 化粧材の養生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 吹付け施工に必要なスペース</li> <li>● 施工車の駐車スペース</li> <li>● <b>床開口部などへの作業床の設置</b> 階段室 / 吹抜け / 大屋根物件の桁上など</li> </ul>
注意	安全対策
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 吹付け施工当日の室内作業はご遠慮ください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 吹抜けなど高所作業となる箇所の転落防止措置・安全確保をお願いいたします。</li> </ul>

### ウレタン飛散対策を必ず行ってください

- 軒先側からの飛散防止のため**面戸処理**をお願いいたします。
- 電気配線穴からの飛散や、幕板シートへの飛散防止のため、**隙間の処理**をお願いいたします。
- 電動シャッターの電気配線穴からの飛散防止のため、**防水テープやコーキングにて処理**をお願いいたします。

※上記対策の未実施による断熱材の外部飛散・付着について、弊社では対応・補償はいたしかねます。

## 03 養生（日本アクアによる施工開始）

- サッシ周りは、マスキングテープやシートなどで養生します。
- 屋根面に施工する場合は、その階の床をマスキングテープなどで養生します。



養生作業 (コンセント周り)



養生作業 (窓)



吹付け前 (壁)



床養生

## 04 吹付け作業

- 吹付け場所への他者の立ち入りを禁止してください。
- 延べ床約30坪で屋根、壁の吹付けであれば、約1日で施工できます。

※サッシ周りの注入工事は別途お見積りいたします。  
※構造用面材への吹付けの場合でも、水漏れ防止のために透湿防止シートを施工しておいてください。



通気スパーサー



天井



壁



透湿防水シート



基礎部立上り



細かい隙間への注入

## 05 削り作業

- ウレタンが柱、間柱から出ている部分はカットします。

※ウレタンの吹付け施工は、壁の場合、設計厚さ+20mmの空間(クリアランス)が必要になります。  
20mm未満になりますと、別途追加費用(削り工事費用)が発生いたします。また、施工が1日で終わらない場合があります。



ヘラやウェーブナイフで削ります

## 06 厚み検査

- ウレタン厚みゲージを使用して検査します。

※厚みを確保するため、アクアフォーム1液性ハンドタイプによる補修を行う場合があります。



厚み基準をクリアしているかチェック

## 07 清掃

- 施工により発生したウレタンフォームなどの産業廃棄物は「広域認定制度」を利用し、アクアブロー(ウレタンブローイング断熱材)及び再生燃料として再生処理しております。

※広域認定制度を利用し、産業廃棄物処理を行う場合は委託契約が必要です。



清掃作業

## 08 吹付け施工後



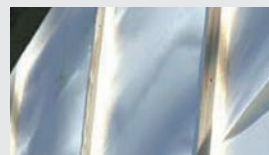
屋根



天井・壁



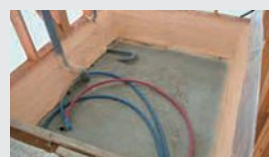
壁(筋交い)



透湿防水シート(外)



熱橋金物部分



ユニットバス(UB)まわり



基礎

## 09 アクアフォーム工事完了確認書兼 納品書の発行

- 施工結果について、発注内容に適合しないなどの問題がございましたら施工後7日以内(プラスターボードを張る前)に、弊社担当者までご連絡ください。

アクアフォーム工事完了確認書  
兼 納品書



## 10 気密測定

- ご希望により、気密測定器を使い正確な相当隙間面積(C値)を測定します。
- 換気口・レンジフード・玄関土間の穴埋めは、建設会社様の方でお願いいたします。

※気密測定費用が別途必要となります。

ご希望の方には  
報告書の発行を  
しています。



# アクアフォーム吹付工事 現場確認シート (参考例)

## 【参考例】アクアフォーム吹付工事 現場確認シート

案件番号  
施工番号

現調日

現場名		建設会社		現場住所	
監督	監督携帯		クリアランス		
		屋根垂木	mm・壁間柱	mm・床根太	mm
施工箇所	吹付工事	施工数量	備考	施工日	
2階屋根or天井	mm	m <sup>2</sup>			
2階バルコニー下	mm	m <sup>2</sup>			
1階軒裏	mm	m <sup>2</sup>	玄関ポーチ		
2階外壁	mm	m <sup>2</sup>		小屋裏壁削り	必要・不要
1階外壁	mm	m <sup>2</sup>		UB壁削り	必要・不要
				腰壁吹付	有・無
				サッシ廻り注入	有・無
				金具埋め	有・無
				吹付面材	耐力面材 シート(※)
				開口部の 大きさ (最大)	mm × mm mm × mm
				コンパネ	700角・700角 1400×700・不要
合計		m <sup>2</sup>		道板	2m・2m・3m・不要
近隣環境・状況					
現場施工時間制限( 無・有 ( : ~ : ) )					
仮設トイレ ( 有・無 ) ・ 仮設水道の設置 ( 有・無 )					
鍵 ( オープン・クローズ ) 【保管場所】					
施工車 ( ショート or ロング ) の駐車場 ( 有・無 ) ⇒ 路駐道路幅【】					
駐車スペースない場合 ⇒ 道路使用許可、ガードマン・近隣駐車場別途地図参照(¥ /h 現金・カード可)					
工具・材料は中央に集めてあるか( 有・無 ) ⇒ 工具・材料の養生( 必要・不要 )					
サッシ・ガラスの取り付け( 有・無 )【】					
シャッターボックス隙間及び電気配線穴の養生( 必要・不要 ) ⇒ 【】					
屋根5寸勾配以上・吹抜けがある場合、足場の設置( 有・無 )※「無」の場合必要脚立寸法( 尺脚立)					
入隅柱・間仕切り壁柱に、ボード受け桟木の取付( 有・無 ) ⇒ 養生( 必要・不要 )					
電気BOX・配線の取付( 有・無 ) ⇒ 養生( 必要・不要 )					
仕上材の養生( 必要・不要 ) ⇒ 【】					
省令準耐火→プラスター梁重ね( cm胴差、梁削り( 必要・不要 )					
天井組・野縁組の設置( 階 有・無 )					
勾配天井( 有・無 ) ⇒ 天井組( 垂木下・母屋下 ) ⇒ 削り( 必要・不要 )					
勾配天井クリアランスが少ない ⇒ 天井下地( 有・無 )もしくは外周下地( 有・無 )					
面戸板( 有・無・又はスペーサー ) ⇒ 軒天( 有・無 ) ⇒ 軒養生( 要・不要 )					
※シート吹付の場合 * 外壁胴縁施工( 有・無 )					
* シートのゆるみ( 多い・多少・少ない )					
UB施工時、配管スペース等の塞ぎ( 必要・不要 )					
フローリングの施工( 有・無 ) ⇒ 養生( 必要・不要 )					
施工会社		営業担当		工事管理	
注意					